

福島第一原子力発電所を視察 福島県と双葉町を表敬訪問

—第 23 回原子力発電所視察・行政表敬訪問—

KAKKIN は令和 2 年 11 月 4～5 日、激励の思いも込めて東京電力(株)福島第一原子力発電所を視察し、福島県と双葉町を表敬訪問しました。震災から 9 年半がたち復興と廃炉に向けて、着実に少しずつ前には進んでいるものの、ゴールはまだ遠いという印象を持ちました。KAKKIN として引き続き福島を応援していきます（参加 14 名、詳しくは KAKKIN ニュース 81 号でお知らせします）。

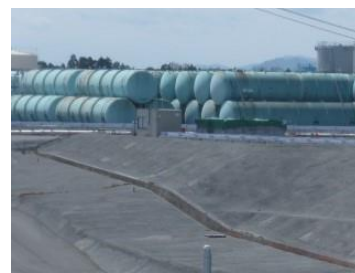
1. 福島第一原子力発電所

福島第一原子力発電所（以下、発電所）の視察は、発電所の南約 10km のところにある東京電力廃炉資料館（富岡町）が起点である。発電所までは約 20 分。

発電所に着くとまず目に入るのは、処理水を貯めた巨大なタンク群である。発電所構内では現在約 3,700 人が作業に当たっているが、線量の低下に伴い、構内の 96% で防護服の着用は不要になっている。



処理水タンク



フェーシング加工された法面処

事故が起きた 1～4 号機の原子炉建屋を一望できる高台に向かう。爆発を起こした 1 号機は鉄骨がむき出しのまま、今後建屋全体を覆うカバーを設置するという。同様に爆発した 3 号機にはドーム状の屋根が取り付けられ、4 号機は燃料取り出し用カバーの鉄骨が設置されるなど、事故前とは形が大きく変わっている。

発電所を出て廃炉資料館に戻り、原子力事故の事実と廃炉事業の現状の説明を受けた。



1 号機



3 号機



廃炉資料館

2. 福島県

福島県では震災復興と原子力行政の幹部の方々から3点にわたり説明を受けた。

- (1) 東日本大震災・原発事故からの復興のあゆみ
- (2) 東京電力福島第一原子力発電所の廃炉に向けた取り組み
- (3) 福島イノベーションコースト構想の取り組み



福島県企画調整部、危機管理部の方々

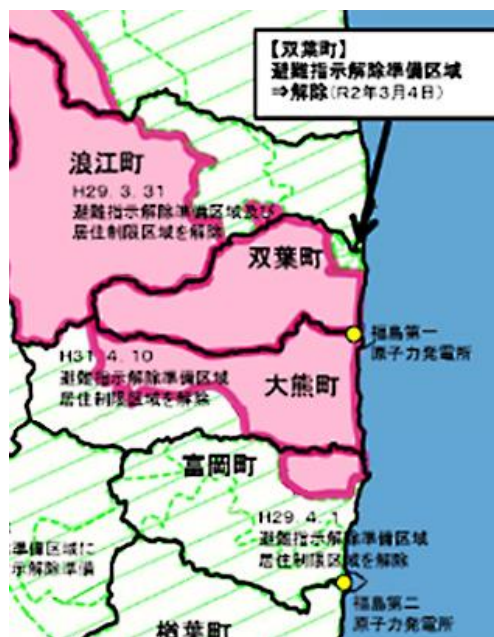
3. 双葉町

双葉町では伊澤町長に対応いただいた。

- (1) 被災の状況
- (2) 避難指示区域の現状
- (3) 復興に向けて
- (4) 処理水と風評被害



伊澤町長



帰還困難区域

避難指示が解除された区域